

第4期 事業報告書

令和4年1月1日から 令和4年12月31日まで

一般社団法人まがたま

1. 今年度の総括

徹底型非営利法人への移行を念頭に、社会活動の整理と準備に要した一年で、基金を元手に災害支援キッチンカーや加工施設などの設備に多額の出費がかさみ、多額の損失金が発生することとなりました。

活動自体は、準備に時間を要したこともあって本格的な始動に至らずに、災害や困窮者支援、動物愛護その他の活動団体への後方支援にとどまりましたが、今後の弊社の活動を円滑に流れるように各事業の団体とも連携を深めたと考えます。

決算収支の経費において「地代家賃」が目立ちますが、社会活動費の捻出のために収益事業にかかる事業経費であり、利益（資金）の事業間移譲を目的とするものです。

多賀の家賃ならびに設備は、災害支援キッチントラック保管と調理場、社会活動拠点です。

2. 事業別収支

事業	収入	支出	収益
[社会活動支援]	792	1,366,285	△1,366,285
配食支援	(0)	(779,098)	(△779,098)
災害支援	(0)	(400,000)	(△400,000)
農業支援	(720)	(17,045)	(△16,325)
動物愛護	(0)	(153,128)	(△153,128)
海洋保全	(0)	(17,734)	(△17,734)
地域文化	(0)	(0)	(0)
社会活動支援共通	(0)	(0)	(0)
[収益事業]	4,932,306	3,581,296	1,751,010
私設私書箱	(4,674,103)	(2,848,954)	(1,825,149)
その他の事業収益	(258,203)	(332,342)	(△74,139)
[事業共通]	72	2,380,854	△2,380,782
[合計]	4,933,098	6,929,155	△1,996,057
法人税等		70,000	△70,000
			△2,066,057

3. 各事業の概要

まがたま[共通]

当期は、主体的な活動はそれほどできませんでしたが、
今後、より多くの方のお役に立てることを念頭に、時間と費用を要したものと考えます。

[社会活動]

配食支援

昨年度末より構想と打合せを繰り返し、災害支援キッチンカーがようやく 11 月にお披露目できました。円滑に活動するためのシステムと流通に時間は要しますが、少しでも早く、より多くの現場でお役に立ちたいと考えます。

災害支援

福島沖地震や 8 月豪雨災害など大きな自然災害が本年度もありました。コロナ禍が続き、現地に出向けない分、遠方からできる支援として、現地活動法人二団体へ各 10 万ずつ計 40 万の活動費を送金。

農業支援

活動自粛もあり、想定していたイベントは中止が多かった。今期も弊社企画の淡路島での玉ねぎ収穫イベントには多くの方に参加いただき、一定の成果を上げることができたと思います。支援と体験をつなげる催事として継続したいと考えます。

動物愛護

認定 NPO 団体アークの定期的な活動支援を続ける。動物愛護の精神を学ぶとともに、非営利団体の運営も参考としております。代表のオリバーさんと庭師の方から学ぶ「大地再生」も、多くの分野で今後の活動に刺激を受けます。

海洋保全

来季からの活動として「海の再生」を目指し、海岸の清掃活動を始める準備をしております。年間通してのごみの回収とイベントを企画して、その重要性周知にも広げていければと模索しています。

地域文化

コロナの影響が続き、イベント企画はほぼ手掛けることができませんでしたが、今できることとして、西成への炊出し資材の提供支援を継続したのみでした。来期は玉造にキッチン設備を整え、地域支援のコミュニティを通しての社会問題支援に少しでもお役に立てる場所として活用します。

[収益事業]

私設私書箱

法人化による信用とコロナ禍自粛の影響もあり安定的な収益。社会問題としてのプライバシー保護より、一般家庭から事業所の開設など多義にわたる希望者が見られます。今後は、収益性のみならず社会的意義を加味して、その必要性を掘り下げていければと考えます。

その他の収益事業

淡路島多賀の社会活動施設を、運営費ねん出のために、臨時的な遊興利用として収益性を持たせること検討。課題と取り組みに、工夫が必要と考える現状。

4. 活動実績

2022年	事項	場所	項目
3月5日	ウクライナ人道支援金	日本ユニセフ	災害支援
3月19日	淡路島多賀 活動場所 建設棟上式	淡路島多賀	催事イベント事業
3月23日	令和4年福島県沖地震 後方協賛支援	一般社団法人ロハス南 阿蘇たすけあい	災害支援
3月23日	令和4年福島県沖地震 後方協賛支援	災害救援レスキューア シスト	災害支援
4月6日	つながらーと2022協賛金	特定非営利活動法人ツ ナガラート	催事イベント事業
4月16, 23, 30日	ARK手伝い、ご案内	ARK	動物保護
5月4日	多賀ベース建築確認	多賀ベース	催事イベント事業
5月7, 14, 21, 28 日	ARK手伝い	ARK	動物保護
5月29日	玉ねぎ収穫手伝い淡路島	池上農場	催事イベント事業
6月4日	ARK手伝い	ARK	動物保護
6月7日	BigIssue企業サポーター	ビッグイシュー日本	一般
6月11, 18, 25日	ARK手伝い	ARK	動物保護
7月 2, 9, 16, 23, 30日	ARK手伝い	ARK	動物保護
8月6, 11, 13日	ARK手伝い	ARK	動物保護
8月15日	令和4年8月豪雨災害 後方協賛支援	一般社団法人 ロハス南阿蘇たすけあ い	災害支援
8月15日	令和4年8月豪雨災害 後方協賛支援	災害救援レスキューア シスト	災害支援
8月16, 20日	ARK手伝い	ARK	動物保護
8月20日	多賀ベースあいさつ回り	多賀ベース	その他社会活動
		池上農場	その他社会活動
8月27日	ARK手伝い	ARK	動物保護
9月3, 10日	ARK手伝い	ARK	動物保護
9月12日	パキスタン洪水	国連 UNHCR 協会	動物保護
9月17, 27日	ARK手伝い	ARK	動物保護
10月1, 8, 15日	ARK手伝い	ARK	動物保護
10月16日	淡路ラボ 備品受取整理	淡路ラボ	配食支援
10月22日	ARK手伝い	ARK	動物保護
10月23日	淡路ラボ 備品受取整理	淡路ラボ	その他社会活動

		淡路ラボ	その他社会活動
10月29日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
11月 3, 6, 11, 19, 26日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
11月4日	淡路ラボキッチンカー運搬	淡路ラボ	配食支援
11月 12, 15, 21, 27日	淡路ラボ 備品受取整理	淡路ラボ	その他社会活動
12月 3, 10, 17, 31日	ARK 手伝い	ARK	動物保護
12月4日	淡路ラボ 備品整理	淡路ラボ	その他社会活動
12月9日	多賀 キッチン設備	淡路多賀倉庫	配食支援
12月13日	淡路ラボ海掃除ミーティング	淡路ラボ	その他社会活動
		活魚小料理 魚喜	その他社会活動
12月28日	淡路島 挨拶回り	淡路ラボ	その他社会活動

5. 今後の事業計画

まがたま[共通]

玉造の拠点の改築を進め、「防災と地域コミュニティ」として有効な場所づくりを多方面のお力を受けながら構築します。

[社会活動]

配食事業

配食活動の指導とそれに伴うシステム構築を早期に進め、少しでも早く、多くの方に行き届く活動を目指します。

事前調理の利便性と安全性を追求し、周知と理解を広め、レストランシェフなどの連携や被災地食材支援も絡めた活動を視野に入れた展開を検討。

災害支援

主として配食活動の出動がメインとなりますが、できる限りの活動にも支援。

農業支援

淡路島の玉ねぎ収穫のほか、年間を通しての農業支援活動を計画。

楽しく美味しく、食育につながる活動として広がることが望ましい。

動物愛護

認定 NPO アークの定期的な活動支援を継続。

代表のオリバーさんと庭師の方から学ぶ「大地再生」を周知イベントを企画。

海洋保全

今期は海岸清掃を定期化することが目標。

淡路島多賀の浜を主だった活動拠点とし、今後はアオモの育成と植付けにまで広がっていくことが望みです。

地域文化

年間行事ごとに協賛して、地元や地方文化維持や非営利団体の活動支援を強化。

催事イベント事業

施設を利用したイベント企画運営。

例) 収穫物の物販と食事会。配食事前調理と食事会。保護犬里親会。チャリティコンサート。防災講習会。非営利団体活動催事。

[収益事業]

インボイス制度が10月より開始するため、請求書発行及び契約書の見直しと、取引相手の告知が必要となります。

私設私書箱

年間を通しての活動費ねん出のためにある程度の固定的な収益のために必要と考える事業ですが、この事業の運営自体が公益事業20にある「公正かつ自由な経済活動の期間の確保及び促進並びにその活性化による国民生活の安定向上を目的とする事業」と解釈することでもあり、実際の利用者にはその目的に適合する方も多い。

その他の収益事業

事業の多様性を含め、運営費ねん出の試みを一括して「その他の収益事業」の部門管理とします。各社会活動においての関連性がある継続的な収益事業が育ってきたときに改めての部門設置とします。現状で考えられる私書箱以外の収益活動として、イベント事業、広告収益、貸室収益などです。

淡路島拠点および玉造コミュニティ拠点は、社会活動を主たる目的として運用することとなりますが、活動費用が枯渇せぬよう枯渇せぬように、臨時的な貸出しによる収益事業にも対応します。

※経済収益のみに流れることなく、弊社目的の社会的意義から逸脱せぬ活動範囲とする。

まとめ

配食支援活動を本格的に開始するとともに、玉造の拠点をコミュニティ活動の基盤を模索しながら、社会活動への準備と事業の本格始動をします。

活動の周知と支援者を広げる大切な年度と考えます。